



## R3 年度小学校英語授業づくりプロジェクト (第 1 回目研修)

### 私の授業実践 ⑦ ～八代市立八千把小学校 下田 晶子 先生～ 5 年 単元名「What do you want to study?」

○単元を通じた学習課題

お互いのことをよく知るために、将来の夢に近づく時間割やなりたい職業などについて伝え合おう。

○本時の目標 (7/8)

お互いのことをよく知るために、勉強したい教科やなりたい職業などについて伝え合うことができる。

### コミュニケーションの目的を明確にし、児童と共有する

本時のめあてを子供と確認する場面。下田先生は、「勉強したい教科やなりたい職業などについて伝え合おう」というめあてを示し、「(今日の活動は) 何のためにやるの?」と子供たちに問いかけます。そこで、子供たちは単元のゴールを振り返りながら「お互いのことをよく知るために」という目的を再確認します。下田先生はさらに、「それでは、お互いのことをよく知るためにはどんな工夫をしてやり取りをしたらいいですか?」と尋ねます。子供たちから出た「質問をするといい」「リアクションを返すといい」などの意見を全体で共有したところで、いよいよペアで伝え合う活動がスタートしました。数分後、下田先生は、活動を一旦止めて、質問やリアクションを返しながら豊かにやり取りをしているペアを紹介し、「Do you like~? を使って質問できていたね。(友達のことを) もっと深く知るためにこのように質問できたらいいね」と、その良さを共有されました。



〈デモンストレーションの様子〉

本時のねらいに迫る言語活動を実践するためには、子供たち自身が明確なコミュニケーションの目的を持って活動を行うことが大変重要です。授業の様子から、下田先生が子供たちのコミュニケーションへの目的意識を高めるためにきめ細やかな指導を行っておられることが分かります。これは、指導者自身が本時の目標と評価を意識した授業実践を行っているからこそできること。指導と評価の一体化を図るうえでも大切なポイントです。

### 児童が本当に伝えたいことを伝え合う活動にアレンジする

本時は、「My Dream Schedule」と題して、自分が考えた 1 日の時間割をタブレット端末で示しながら紹介する活動でした。下田先生は、児童がより意欲的にコミュニケーションを図ることをねらい、6 時間目には子供たちがそれぞれ考えたオリジナルの教科を入れることを指示されていました。これは、使用している教科書の活動には設定されておらず、下田先生が独自に取り入れられた工夫です。子供たちの時間割を見ても、「kendo」「shot (注射)」「swimming」など、それぞれに個性あふれる教科が取り入れていました。そして、実際の言語活動では、このオリジナル教科を中心に活発にやり取りをする様子が見られました。指導者のちょっとした工夫により、子供たちの「伝えたい」「聞きたい」というコミュニケーションに対する意欲が大いに高まっていることを実感しました。

小学校高学年では教科外国語となり教科書を用いた授業が行われています。小学校外国語科の教科書はどの教科書も大変丁寧な作りで、様々な活動が設定されています。しかし、教科書に設定されている言語活動が、必ずしも目の前の子供たちが活発にコミュニケーションを図るのに適した活動であるとは限りません。そのため、下田先生の実践のように、目の前の子供たちの実態に合わせて教科書の活動を変更したり付け加えたりすることが何よりも大切です。そのためにも、指導者側には深い児童理解が求められます。子供たちがどのようなことに興味をもち、どのようなことをやってみたいと思っているかなど日頃の様子や他教科等の学習活動を通して十分に把握しておくことが重要です。